

近代天皇制と「賤」・「穢」

はじめに

「万世一系」という天皇制の系譜の近代における構築性

cf. 網野善彦の王権と「賤民」論

巨大な古墳が天皇陵の時代、古代と近代のみ

→近代に桃山御陵、多摩陵(上円下方墳)ができた時代が、「万世一系」の天皇系譜ができた時代

天皇制は近代の一種の「身分制」

松本治一郎：「貴族あれば賤族あり」

「天皇制」と「身分」の語は連関して1930年代に生成

1. 近世後期の由緒を求める運動(18世紀後半から)

- ・村のレベル 先祖代々の墓、庄屋層の系図
- ・「賤民」の由緒 被差別部落の河原巻物、夙の五条家への由緒
- ・皇室における「神武天皇」起源の浮上(幕末以降)
 - ⇒ 近世的な泉涌寺の由緒は、天智一桓武一平安京の天皇文久の修陵事業における神武天皇陵の位置
 - 1867年12月の王政復古の大号令で「神武創業」が公論化

2. 天皇をめぐる「賤」・「穢れ」の変容

- ・近世天皇と朝廷をめぐる「活気」、開放性 ⇒近代の皇居空間との違い
京都御所が観光スポット
千寿万歳・猿回し・陰陽師などの正月行事、節分の庶民の禁裏への参拝、即位式の拝観
- ・東京「奠都」(1869年)、廃藩置県(1871年)を契機とする、皇室における仏教的要素
- ・お召緒太の献納(梅戸の姫廻家に対して)
 - 明治三年三月十五日まで畏くも明治天皇御召を最後としてご用命を拝したり、後帝都(江戸)東京赤坂宮城へお移りになり御還幸あそばされ御服装も御変りあらせられてより古礼の御式典には御召あるやもにて予め用意成し置くべしとの御達ありたり
 - (姫廻伊兵衛『御召緒太由来書』1952年)
- ・明治4年8月~9月、「賤民廃止」令 穢多・非人・夙・陰陽師・陰亡・巫など
- ・陵墓をめぐる清浄化

畝傍山・神武天皇陵（1863年）・橿原神宮（1889年）の三位一体の神苑化

*その中で、洞部落の移転問題

1920年(大正9)5月、「郡長地方改良講習会」の洞部落移転にかかわる史料が『高市郡役所文書』に残される(『奈良県行政文書』二・六一T七一)。

↓

一、大正六年五月の交、同部落を他に移転せしめんとし、徐に之を懲遷し始めたり、此移転の理由は宮内省方面に於て同部落地域を御料地に編入せんと希望ありたる外

一、南西に畝傍御料林を負へるを以て日当り悪く主たる部落民の生業たる下駄表の乾燥に困難なること

二、部落民の多数は貧困にして雑然たる矮屋に住し衛生上住宅改善の必要ありたること

三、多少の土地家屋を所有せるものも概ね負債の為、抵当権を設定し其利子支払に苦めるの状況なるを以て、一般に家政上之を整理するの必要ありたること

四、居は氣を移すの諺の如く部落民思想改善の為、他に移転するを利なりとせること

五、特に神武御陵兆域を眼下に見るの地位にありて恐懼に堪へざること等の諸理由に基けり

- ・伊勢神宮神苑・熱田神宮神苑・京都御苑・陵墓群（鳥居・参道・植樹・拡張）・大和三山など ⇒ 天皇制の聖地の連鎖的清浄化 1880-90年代
(日露戦争後に全国の村の神社まで)

3. 天皇の系譜の問題

- ・ 1867年12月、王政復古の大号令、「神武創業」、『日本書紀』にもとづく皇祖皇宗の系譜の公論化⇒古代奈良の浮上
- ・ 1870年閏10月24日、御系図取調掛の設置
- ・ 1871年の皇室の神仏分離・泉涌寺改革⇒仏教に基づく平安京の系譜の否定
- ・ 1878年の春秋皇霊祭
- ・ 1889年2月11日、大日本帝国憲法の発布
 - 1、大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス
 - 2、皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス
 - 3、天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- ・ 1889年6月1日、「足立[正声]諸陵助より川田諸陵頭へ参考として其意見」

二条[天皇陵]

此ハ色々探索候へ共、古墳らしきものも無之候へハ、無抛松原村ノ人家処ニ高燥らしき茶畑ノ一画ヲナセル処ヲ見立置候……

宇治墓[応神天皇皇子菟道稚郎子宇治墓]

今少し山処ナレバと思ふまでにて体裁ニハ云分なし……ココニ決して憾(うらみ)なかるべし

神武皇后陵

コレニハ困リ候へ共、新ニ築陵ノ思食ニ而決セラルベクヤ、或ハ外ニ良地ヲト（ぼく）シテ修陵アラセラルベクヤ、いづれニ而も可然……

・1889年6月9日、

是より先、条約改正の議起るに際し、伯爵伊藤博文以為（おもへ）らく、万世一系の皇統を奉戴する帝国にして、歴代山陵の所在の未だ明かならざるものあるが如きは、外交上信を列国に失ふの甚しきものなれば、速かに之れを検覈し、以て国体の精華を中外に発揚せざるべからず（『明治天皇紀』1889年6月9日条）

・1890年10月30日、教育に関する勅語

朕惟フニ、我カ皇祖皇宗国ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ、我臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ厥（そ）ノ美ヲ濟セルハ、此レ我カ国体ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦実ニ此ニ存ス

・1891年2月16日、皇統譜凡例および書式が裁可される

4. 日清・日露戦争と天皇制

・ベネディクト・アンダーソン⇒国家のために死ぬことができる国民の創出

日清戦争（1894-5年）の動員 12万人 死者 約1万3千人

日露戦争の動員（1904-5年） 108万人 死者 約12万人

・日露戦争後、帝国主義の世界体制（総力戦）に対応する地域社会の創出（宮地正人）

在郷軍人会、農会、青年団、婦人会、御真影・教育勅語の浸透

⇒19世紀後半は、国家・制度をいかにつくりだすか

日露戦争後の20世紀は、社会の改良、一人一人の国民の教化、が課題

・日清・日露戦争と日本文化

⇒アジア（中国・朝鮮など）という他者、欧米という他者と向き合う

国語の成立 言文一致教育、唱歌、国定教科書

古社寺保存法（1897年）＝国宝概念、史蹟名勝天然紀念物（1909年）

新渡戸稲造『武士道』（1900年）、岡倉天心『茶の本』1906年

大相撲 国技館の成立（1909年）

日本美術史の活字化 パリ万国博⇒ Histoire de L'art du Japon（1900年）

国花＝桜の喧伝

日清戦後の弘前城へのソメイヨシノの植樹

・20世紀に被差別部落にも天皇制がやってくる

融和運動・水平運動の中で、明治天皇が解放令を制定した「聖恩」神話の形成

御真影や教育勅語がやってくるのも大正期以降 cf.『明治之光』

cf. 1915年の『奈良県風俗志』の高市郡の記載

国旗が村内に行き渡るのは明治天皇の大喪時

他府県人は「皇祖発祥の地」とするも「地方民は何等の感想なし」

⇒近代の部落問題と天皇制の新たな結びつき

図版



参台(内) 殿前庭千秋万歳之図(『公事録』附図は、岩倉具視の命をうけて大和絵の画人が描き、1887(明治20)年に完成した。宮内庁書陵部所蔵)。

①



神武陵がつくられる前(幕末)の想像図 鈴木良「天皇制と部落差別」『部落』1968年2月号より。

②

内宮神苑園



内宮神苑園 典拠・奈良県行政文書『神苑会関係書類』1-M24-25。

③